

行政視察報告書

令和6年11月12日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 真栄城 隆

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	建設委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月5日（火）～令和6年11月7日（木）
3. 視 察 先	①東京都文京区 ②東京都杉並区 ③埼玉県越谷市
4. 調査内容	①コミュニティバス運行事業について ②ビッグデータを活用した交通安全対策のための道路整備について ③再生可能エネルギーの導入による購入電力の削減および売電
5. 参 加 者	〔建設委員会〕 委 員 長 真栄城 隆 副委員長 天願 久史 委 員 下門 勝 玉元 哉世 真壁 朝弘 宮城 一寿 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	① 文京区長、区議会副議長、区民部区民課長、区民課庶務係長、議会事務局職員 ② 杉並区議会事務局長、係長、土木計画課課長、係長、主査 ③ 越谷松伏水道企業団企業長、議長、事務局局長、次長兼総務課長事務局職員4名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 ① コミュニティバス運行事業について 5日午後、座学に先立ってコミュニティバスに試乗させていただいた。コンパクトながら、路線バスと同じ仕様で、乗車・降車がスムーズでした。生活道路ながら道路幅員の狭い道路を走行するのに適したバスでした。 翌日には座学を受けましたが、冒頭文京区長から挨拶をいただいた。うるま市と文京区の友好都市調印に伴い、益々の発展協力関係を構築したいとありました。特に子供たちの交流で、本市の教育向上に期待したい。 事業概要の特徴を上げると、運行目的は公共交通不便地域の解消、事業者は日立自動車交通、運行形態は事業者の自主運行、20分間隔運行、運賃は100円、3ルート8.6キロから11.6キロを1時間前後で走行しています。 事業開始から19年経過し、バス1台当たり1日乗車人数は300人目標に概ね達成、または見込まれています。3ルート開業により、半径200m以遠を公共交通不便地域

とする割合が13.9%まで解消。200m基準は東京都の指針と説明があったが、沖縄県でも500mを指針が適切か今後調査したい。

懸念事項は深刻な運転手不足と年間1億円に達する見込みの補助金。地方ではハードルが高すぎる。



② ビッグデータを活用した交通安全対策のための道路整備について

杉並区は道路の約5割が幅員4m未満の生活道路が問題となっている。そのため、これまでは安全対策として対処療法を行っていた。本市のみならず、全国各地域自治体が共通の方法であった。欠点は要望対応の判断基準がないため、定量的な効果検証が困難であった。この課題を克服するため、E T C 2.0の機能を利用したビッグデータ活用。高速道路の出入り情報だけでなく、一般道路において搭載車の速度、経路、急ブレーキデータを収集。渋滞対策や交通安全対策に活用する取り組みである。

杉並区においては馬橋通りの分析結果から、急ブレーキ発生箇所と車両スピードを把握することで、事故が発生する可能性がある潜在的な危険箇所を特定。地域住民との合同点検を行った結果、カラー舗装やカラー路側帯、速度抑制の路面標示を施工した。その結果、急ブレーキの発生は増えたが、潜在的な危険箇所2箇所ですべて事故0、また事故件数5件から3件へと減少し、効果があった。

国土交通省の地域における道路交通データの活用は地域の交通安全対策として、無償でデータ提供、分析を受け取ることができる。また観光地のピンポイント対策や災害時交通マネジメントも活用可能との事。本市でも活用すべきものと思う。また、荻窪駅周辺まちづくりで、ゾーン30プラスの施工箇所を視察したが、30kmの速度規制と狭さくやハンプ設置が適切であり、速度、騒音が良化した。しかし、振動が悪化したことが、懸念材料であるが、沿道のマンション住民のアンケートは好回答が高いことから、本市ではレンタルハンプの活用も検討すべきではと思う。



- ③ 再生可能エネルギーの導入による購入電力の削減および売電
越谷市、松伏町の水道企業団事業取り組みである。同企業団の給水人口は37万人、日平均排水量は1,010,000 m^3 を超えていることから、本市の3倍規模である。今回の目的である小水力発電は西部配水場に設置されている。埼玉県企業局の新三郷浄水場からの県水を受水する際の余剰圧力を有効利用しているもの。受水圧力が0.5MPaの高压を0.2MPaへ減圧する際の余剰圧力を電気エネルギーへと利用する取り組みである。
- 設置にかかる費用は7,850万円。うち中小水力発電開発事業補助金1,300万円、グリーン電力基金から1,000万円と、自己負担金約5,500万円であったが、節電電気料金1億4,900万円、売電額2,500万円と大幅な黒字実績とのこと。CO2削減も併せて考えると、本市事業にも取り組みを熱望したい。しかし、本市の水道局への沖縄県受水圧力は弱く、導入実現性は低い。しかし、高低差を利用すれば可能との答弁があったので今後の研究としたい。



行政視察報告書

令和6年11月14日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 天願 久史

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	建設委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月5日（火）～令和6年11月7日（木）
3. 視 察 先	①東京都文京区 ②東京都杉並区 ③埼玉県越谷市
4. 調査内容	①コミュニティバス運行事業について ②ビッグデータを活用した交通安全対策のための道路整備について ③再生可能エネルギーの導入による購入電力の削減および売電
5. 参 加 者	〔建設委員会〕 委 員 長 真栄城 隆 副委員長 天願 久史 委 員 下門 勝 玉元 哉世 真壁 朝弘 宮城 一寿 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	1 文京区長、区議会副議長、区民部区民課長、区民課庶務係長、議会事務局職員 2 杉並区議会事務局長、係長、土木計画課課長、係長、主査 3 越谷松伏水道企業団企業長、議長、事務局局長、次長兼総務課長事務局職員4名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
	①コミュニティバス運行事業について 文京区では、地域の地形に起因する公共交通機関へのアクセス不便を解消するため、コミュニティバス「B-ぐる」の運行計画を策定し、最寄りの公共交通機関

まで 200m 以上離れた地域を公共交通空白地域として捉え、その解消を目的としたバスネットワークの構築が進められている。

運行は、日立自動車交通株式会社による自主運行で、文京区は経費補助や調査・広報支援を行っている。

主要な運行ルートは、千駄木・駒込ルート、目白台・小日向ルート、本郷・湯島ルートの 3 路線で、地域内の病院、福祉施設、商業施設、観光地等を結び、区民の利便性向上と地域活性化を目指しており、既存のバス路線が通らない小道を経由することで、交通空白地域の解消が進み、公共交通機関へのアクセスも改善されている。

利用促進活動は、Bーぐる沿線協議会で協議され、公募委員や学識経験者、関係団体と連携して行われている。

今後も安定した運営と利便性向上が期待され、道路の幅員が 4m 未満の地域の交通課題解決に向けて、EV 車活用グリーンスローモビリティの検討もされているとの事。

他県において、うるま市の EV 車を活用したグリーンスローモビリティの事例もあることから、友好都市の連携を活かした取組も必要と感じる。

今後は本市で行われている、公共施設間連絡バスの実証運行を踏まえ、文京区での学びを参考に、住民の需要を意識した取組は重要であり、更に調査・研究して参りたい。

②ビッグデータを活用した交通安全対策のための道路整備について

近年、ETC2.0 車載器や対応カーナビを活用し、走行履歴や挙動履歴を収集・分析することが可能となり、国土交通省はこれを基に、従来の事故発生箇所に対する対症療法的な対策に加え、潜在的な危険箇所の特定（見える化）を進めている

これにより、速度超過や急ブレーキが発生しやすい箇所を特定し、生活道路において速度抑制や交通進入抑制を目的とした効率的かつ効果的な対策を実施している。

具体的には、路側帯がない側の車両で急ブレーキが多発していることが確認され、これにより路側帯を横断しようとする歩行者に対する危険が増加していると推定され、路側帯の設置が行われた。

この取り組みは、全国で進行中であり、今後の安全対策に寄与することが期待

される。

本市においてもビッグデータを活用し、潜在的な危険箇所の早期発見と対策を進めることで、さらなる交通安全の確保が期待されることから、杉並区での事例を参考に更に調査研究に努めて参りたい。

③再生可能エネルギーの導入による購入電力の削減および売電

埼玉県越谷・松伏水道企業団では、西部配水場における送水圧の高い状況を受け、送水管に小水力発電設備を導入し、圧力調整と発電を同時に実現する取組がされた。

また、温室効果ガス排出量削減を目指す水道事業マスタープランに基づき、具体的には、送水管に小水力発電設備を設置し、屋上には太陽光発電設備を設置することで、施設内電力の約36%を自家発電により賄い、購入電力の削減と売電収益の確保を実現しました。

これにより、年間約1000万円の電力購入削減と250万円の売電収益を得るとともに、太陽光発電設備による更なる電力削減を達成しました。加えて、CO2排出量は年間約20トン削減され、環境負荷の軽減にも貢献している。

これらの取組は、再生可能エネルギーの導入によるコスト削減効果と環境貢献を両立させるものであり、今後も継続的な再生可能エネルギーの活用が望まれる。

うるま市でも、新水道ビジョンにおいて、消費エネルギー・CO2排出を削減した低炭素化社会に向けて、省エネルギー型の高効率機器、太陽光発電、小水力発電、省エネルギーや再生可能エネルギーの設備導入を施設の更新にあわせて検討されましたが、小水力発電におきましては、さらに小規模な施設に対応したマイクロ水力発電について、令和3年度に取扱業者より説明を受けており、本市の管路施設台帳を基に調査を依頼した結果、残念ながら本市の管径（流量）と高低差では、採算性で厳しいとの評価と伺っておりますが、今後更に調査・研究を重ねて、本市の施設にも設置可能な発電設備の開発を期待するとともに、脱炭素社会を意識した取組を推進して行きたい。

行政視察報告書

令和6年11月 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 下門 勝

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	建設委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月5日（火）～令和6年11月7日（木）
3. 視 察 先	①東京都文京区 ②東京都杉並区 ③埼玉県越谷市
4. 調査内容	①コミュニティバス運行事業について ②ビッグデータを活用した交通安全対策のための道路整備について ③再生可能エネルギーの導入による購入電力の削減および売電
5. 参 加 者	〔建設委員会〕 委 員 長 真栄城 隆 副委員長 天願 久史 委 員 下門 勝 玉元 哉世 真壁 朝弘 宮城 一寿 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	① 文京区長、区議会副議長、区民部区民課長、区民課庶務係長、議会事務局職員 ② 杉並区議会事務局長、係長、土木計画課課長、係長、主査 ③ 越谷松伏水道企業団企業長、議長、事務局局長、次長兼総務課長事務局職員4名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 【コミュニティバス（Bーぐる）運行事業について（東京都文京区）】 公共交通の空白地帯を解消し、住民の利便性の向上が図られていた。 最寄り駅・停留所までの距離が200m以上である地域を公共交通空白地域とし、これを解消するようにルート設定されている。 既存のバスが通らない小さな通りも通る周回の3ルートを設定し、1ルート4台、2ルート4台、3ルート3台で運行し、20分に一回を基本にバス停を周回している。 また、1台を予備車として確保してある。 100円で乗車でき、乗り換えも一回までは無料でできるシステムを構築し、住民の負担を抑え、利便性を向上させているのが特徴であった。 運営は、日立自動車交通が自主運営・運行しており、協賛金や都や区からの補助金、そして利用者からの利用料で運営されている。 昨今の人手不足や、賃金上昇を踏まえ、今後は区の負担額は一億円程度になるよ

うだ。本市では、うるま市公共施設間連絡バス運行事業が実施されているが、今後の展開の参考としていきたい。

【ビッグデータを活用した交通安全対策のための道路整備について（東京都杉並区）】

ETC2.0によるデータを活用して、スピード、急ブレーキなど、様々な運転状況をビッグデータで分析し、道路整備の優先度を決め、道路形状など工夫を凝らした道路整備がなされていた。

道路整備の関する要請は、多数あることからビッグデータを活用した取組を行うことで、整備根拠が示せる利点もある。

本市でも、ビッグデータを活用し、各道路での運転状況を把握することで、安心安全な道路整備に活かしていきたい。

【再生エネルギーの導入による購入電力の削減及び売電について（埼玉県越谷市・松伏町との水道企業団）】

同事業団では、県水購入時の水道管における余剰圧力を活用して、小水力発電設備を活用した発電を行い、浄水場内の約36%を賄うとともに、固定価格買取制度を利用して売電収益を得ている。

余剰圧力を活用した小水力発電という発想は素晴らしく、本市でも導入可能か検討を行い、その他の再生エネルギーと組み合わせた取組に繋げていきたい。

行政視察報告書

令和6年11月11日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 玉元 哉世

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	建設委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月5日（火）～令和6年11月7日（木）
3. 視 察 先	①東京都文京区 ②東京都杉並区 ③埼玉県越谷市
4. 調査内容	①コミュニティバス運行事業について ②ビッグデータを活用した交通安全対策のための道路整備について ③再生可能エネルギーの導入による購入電力の削減および売電
5. 参 加 者	〔建設委員会〕 委 員 長 真栄城 隆 副委員長 天願 久史 委 員 下門 勝 玉元 哉世 真壁 朝弘 宮城 一寿 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	① 文京区長、区議会副議長、区民部区民課長、区民課庶務係長、議会事務局職員 ② 杉並区議会事務局長、係長、土木計画課課長、係長、主査 ③ 越谷松伏水道企業団企業長、議長、事務局局長、次長兼総務課長事務局職員4名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
東京都文京区 【コミュニティバス運行事業について】 地域の意見を聴取・集約する過程で苦労した点について質問しました。 運行開始した令和3年9月30日を例にすると地域住民等からの要望を踏まえ、コミュニティバス事業の課題分析や公共交通不便地域の状況、地域住民の意向、調査、検討などを行い、また区議会へ報告、町会、高齢者団体など様々な団体から「コミュニティバス協議会」へ報告し様々な団体とコンセンサスを取りながら丁寧に進めて実現できていることが理解でき、各関係者の合意を取り付けるまでには相当な苦労があったと思うし、本市うるま市でも実現させていくには丁寧な進め方が必要と思う。更には大きな課題として運転手不足で時間帯によってはバスを運行できていない現状もあり、コミュニティバス事業の運行事業のみならず運転手の確保も並行しながら検討していくことを学んだ。うるま市の公共間連絡バス	

運行の参考にしていきたい。

コミュニティーバスB-ぐる現場視察



文京区役所にて座学



東京都杉並区

【地域における道路交通データの活用について】

杉並区は国土交通省からのデータ活用を踏まえた根拠のある交通安全対策を実施している。例えば速度超過、急ブレーキ多発、抜け道等の潜在的な危険個所を特定し交通安全対策に生かしている。他にも渋滞対策としてETC2.0プローブデータ等で観光施設の周遊行動を把握し渋滞対策にも活用している。全国的には他市町村でも現場レベルで事故が多いから対策が必要として安全対策を実施している自治体がほとんどだと思うが、このようなデータによる根拠があれば事故が起こる前に危険個所を安全対策できる仕組みが可能になる。うるま市でもこのような事例が実施可能なのかを探っていきたいと思う。

杉並区役所座学・現場視察



埼玉県越谷市（越谷・松伏水道企業団）

【水道企業団・小水力発電について】

埼玉県越谷市の小水力発電機は、企業局の新三郷浄水場から県水を入水する際の余剰圧力を有効利用している。余剰圧力を水車により回転させて電気エネルギーに変換しエネルギーの有効利用に使っている。また、環境対策の取組として配水場の太陽光発電や小水力発電による再生可能エネルギーの活用に取り組んでいる。

エネルギーを活用しながら水道事業でも黒字であり、うるま市でも環境に考慮したことも含め、今後参考にできるところがあれば参考にしていきたい。

越谷・松伏水道企業団にて座学・現場視察



行政視察報告書

令和6年 11月 25日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 眞壁 朝弘

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	建設委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月5日（火）～令和6年11月7日（木）
3. 視 察 先	①東京都文京区 ②東京都杉並区 ③埼玉県越谷市
4. 調査内容	①コミュニティバス運行事業について ②ビッグデータを活用した交通安全対策のための道路整備について ③再生可能エネルギーの導入による購入電力の削減および売電
5. 参 加 者	〔建設委員会〕 委員長 真栄城 隆 副委員長 天願 久史 委員 下門 勝 玉元 哉世 真壁 朝弘 宮城 一寿 事務局 山城 太
6. 視察先 対応者	① 文京区長、区議会副議長、区民部区民課長、区民課庶務係長、議会事務局職員 ② 杉並区議会事務局長、係長、土木計画課課長、係長、主査 ③ 越谷松伏水道企業団企業長、議長、事務局局長、次長兼総務課長事務局職員4名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 「東京都文京区」 『1』コミュニティバス運行事業について (令和6年11月6日（文京区役所） (メリット) (1)地域の住民の利便性向上高齢者など病院や公共施設へのアクセスが向上します。 (2)自家用車の利用が減少することで渋滞対策と CO2 削減で環境対策にもつながっている。 (3)狭い道の商店街にも足を運びやすい事で街の活性化や観光振興にも期待される。 (4)鉄道が遠い地域に公共交通が提供できる。

(デメリット)

- (1)コミュニティバスは採算性が低いため運営コストの負担が大きく行政や税金などで補っている。

『所見』

(1)文京区の特性と課題

文京区は高齢化が進む地域でもあり、高齢者の移動手段の支援が求められています。鉄道から離れたエリアや、坂道の多い地域ではコミュニティバスのニーズが高いと考えられます。ただし、運営にあたっては観光促進、環境配慮なども踏まえ、利用者を増加する取り組みが必要だと考えられます。

「東京都杉並区」

『2』ビッグデータを活用した交通安全対策のための道路整備について

(令和6年11月6日) (杉並区役所)

- (1)交通事故の発生地点や時間帯、事故の種類を分析することで、事故多発地点を特定し、歩行者事故が多い場所では横断歩道や信号機の追加処置が検討されます。高齢者や車椅子利用者の移動データを分析し、バリアフリー化や段差解消の優先順位を決定し整備をする。
- (2)交差点の形状変更で左折時の車巻き込み事故防止左折専用レーンの追加や、ラウンドアバウト化や道路照明の強化、歩行者検知システムの導入、歩行者専用道や自転車レーンの新設、道路脇の緑地帯や縁石の設置で歩道と車道の明確な区別を図ることで安全性が高まる。

『所見』

ビッグデータを活用することで、交通問題を、定量的かつ迅速に把握でき、事故多発地点の特定やリアルタイムな渋滞データの活用は、限られた予算で最大の効果を引き出せる可能性があります。

個人情報保護法や監視社会のリスクにどう対応するかが重要で、杉並区の取り組みは先進的な街づくりの一環といえますが、持続可能性や住民の理解を得る仕組みが整えば、他地域にもモデルケースとして広がる可能性があると感じた。

「埼玉県越谷市」

『3』再生可能エネルギーの導入による購入電力の削減および売電

(令和6年11月7日) (埼玉県越谷市 越谷・松状水道企業団)

- (1)越谷・松状水道企業団が再生可能エネルギーを購入電力の削減や売電を行う取り組みは持続可能なエネルギー利用を促進するためのステップで、このような取り組みは、自給率を高めるだけでなくCO2削減や地域経済の活性化にも寄与する。
- (2)自前再生エネルギー施設で発電した電力を利用することで、コスト削減にも繋がっている。
- (3)必要量以上の電力を発電した場合、余剰電力を電力会社に売電することも可能で、売電収入は事業の維持費や環境対策の資金源として活用されている。

『**所見**』

地域と連携したエネルギー戦略は再生可能エネルギー導入によって、地域内の再生エネルギー自給率を高め地方自治体や住民との協力を深め地域の再生エネルギー技術の普及促進を他の自治体にも影響を与える可能性もあると考えられる。

行政視察報告書

令和6年11月12日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 宮城 一寿

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	建設委員会 行政視察
2. 期 間	令和6年11月5日（火）～令和6年11月7日（木）
3. 視 察 先	①東京都文京区 ②東京都杉並区 ③埼玉県越谷市
4. 調査内容	①コミュニティバス運行事業について ②ビッグデータを活用した交通安全対策のための道路整備について ③再生可能エネルギーの導入による購入電力の削減および売電
5. 参 加 者	〔建設委員会〕 委 員 長 真栄城 隆 副委員長 天願 久史 委 員 下門 勝 玉元 哉世 真壁 朝弘 宮城 一寿 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	① 文京区長、区議会副議長、区民部区民課長、区民課庶務係長、議会事務局職員 ② 杉並区議会事務局長、係長、土木計画課課長、係長、主査 ③ 越谷松伏水道企業団企業長、議長、事務局局長、次長兼総務課長事務局職員4名
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 11月5日（火） 15時55分訪問 *文京区コミュニティバスBーぐる乗車体験・・・・案内：区民課 和久本係長 千駄木・駒込ルート・目白台・小日向ルート・本郷・湯島ルートの3ルートがあり、 今回本郷・湯島ルートを乗車体験した。 (1) コミュニティバスについて（交通不便解消取組） ①道幅4メートルで都民が密集している地域へのバス運行 ②座席12席で小型バスを使用 ③ 20分間隔での運行 ④料金：1回乗車で大人・こども100円



和久本係長によるBーぐる説明
**乗車体験 16時30分終了

本人・乗車体験

1 1月6日(水) 9時訪問

*東京都 文京区区役所

テーマ：コミュニティバス運行事業について・・・進行役：和久本係長

1. 挨拶

(1) 田中 香澄副議長

①うるま市・盛岡市・文京区とで、学生の平和学習友好交流事業の一環として今後も力を入れて行きたい。

(2) 成澤廣修区長

①12月肝高阿麻和利公演で60名が文京区との交流が予定されている。

②コミュニティバス運行事業は赤字覚悟で、交通不便地域の為に実施。

令和6年度の赤字は7,000万円・7年度は1億円覚悟している。

(3) 真栄城委員長挨拶

うるま市概要・合併20年・うるま令名(さんごの島)紹介等

2. 研修内容

(1) 運行目的

- ①公共交通不便地域、既存鉄道駅・路線バス停半径200m遠地区を対象
- ②区民等の利便性を高め、病院・福祉施設・観光・文化施設・商業地域等を結ぶことで人の動きを活発にし、地域の魅力や活力を引き出す。

(2) 運行業者・運行形態・運行時間

日立自動車交通（株）による自主運行の20分間隔で365日運行

(3) ルート（3ルート運行）

- ①千駄木・駒込ルート（4台運行・所要時間：70分）
- ②目白台・小日向ルート（4台運行・所要時間：65分）
- ③本郷・湯島ルート（3台運行・所要時間：50分）

3. 質疑・応答

(1) 自然災害時の運行対応について（例：強風・台風等の対応）

→計画運行を実施。ホームページ等で事前に区民へ案内（お知らせ）している。

4. 事前質問事項（12項目）

建設委員から12項目の事前質問事項に対し、添付資料にて回答。



議会事務局での研修



議場内

5. お礼の挨拶・・・天願副委員長より・・・10時25分 終了

1 1月6日（水） 13時30分訪問

*東京都 杉並区区役所

テーマ：ビッグデータを活用した交通安全対策・・・進行役：武原係長

1. 挨拶

(1) 議会事務局 森 雅之局長

- ①23区内で6番目に人口が多い杉並区である。交通安全対策の課題としてビッグデータを活用した道路整備を実施している。

(2) 真栄城委員長挨拶

うるま市概要・合併20年・うるま令名（さんごの島）紹介等

2. 研修内容

ビッグデータを活用した交通安全対策・・・説明：山崎 真輝主査

(1) 取組経緯

- ①杉並区は人口密集区・道路の約5割が幅員 4 m未満
- ②これまでの安全対策は通学路点検・対策及び事故発生個所の対応

(2) 新たな対策

- ①ビッグデータや合同点検で特定された潜在的な危険個所への対策
- ②潜在的な危険個所に対する予防型の安全対策・・・*馬橋通りの安全対策を実施

(3) 事業の実施手続き対応

- ①自治体で国土交通省へ申請⇒国土交通省から分析結果提供
- ②自治体から対策状況報告⇒国土交通省から分析結果提供
- ③平成28年対策前データ収得・29年立案・対策実施・30年効果・検証

(4) 安全対策立案

- ①潜在的危険個所の交差点危険個所を周知する為に、カラー舗装・挟さく設置
- ②潜在的危険な道路面に速度抑制の路面表示を設置。
- ③児童生徒の歩行確保で、道路面をカラー化した道路帯を設置。
- ④自動車と自転車出遭い事故を減らす為に、交差点に路面表示を実施

(5) 事業効果

- ①平成25年から29年の発生事故5件（車両事故3件）⇒平成30年は3件の事故が発生したが、車両事故はゼロになった。
- ②メリット
 - 1. 対策後約1年で潜在的な箇所の事故を2件防げた。
 - 2. 潜在的な箇所での車両関係事故が無くなった。
- ③デメリット
 - ・速度抑制、急減速の発生回数への効果は限定的だった。物理対策が要因

3. 質疑・応答

個人の事前質問事項2件に関して説明を得た。

- (1) ビッグデータの情報入手・・・国土交通省より
- (2) ビッグデータの具体的な活用・・・事前交通事故地域の安全対策



議会事務局での研修

現場視察（馬橋通りの安全対策実施） 14時30分から15時30分



ポストコーン設置



歩行者・自転車への配慮

道路面のカラー化

交差点の路面表示設置（湾曲表示）

現場にて天願副委員長よりお礼の挨拶

1 1月7日（木） 9時訪問

＊埼玉県 越谷市 越谷・松伏水道企業団議会

テーマ：越谷・松伏水道企業団の再生可能エネルギーの導入による購買電力の削減及び売電について・・・進行役：白河部貴彦調整幹

1. 挨拶

（1）島田 玲子議長

①越谷・松伏水道企業団議会は15名の議員で構成。

（2）野口 晃利企業長

①この50年間で14万人から37万人に人口が増えての対応を実施

②職員は全て越谷市の職員

（3）真栄城委員長挨拶

うるま市概要・合併20年・うるま令名（さんごの島）紹介等

2. 研修内容・・・・・・・・・・・・・・・・説明：白河部貴彦調整幹

（1）越谷・松伏水道企業団概要・・・・・・・・資料添付

①給水人口：370,710人（令和5年度）

②年間配水量：37,069,306 m³

③日平均配水量：101,282 m³

④水源は埼玉企業局からの受水と地下水くみ上げ

⑤浄水場：2カ所 配水場；3カ所

（2）西部配水場小水力発電について・・・・・・・・資料添付

①小水力発電機は、埼玉県企業局の新三郷浄水場から受水する際の余剰圧力を有効利用しての発電。

②受水圧約0.5MPa程度の余剰圧力を0.3MPaで配管内の水車を回転させ電気エネルギーに変換しエネルギーの有効利用を実施。

（3）西部配水場小水力発電の実績

＊発電は西部配水場で使用した、余剰電力を売電している。

①工事事業費：74,770千円（税抜き）

②補助金：23,679千円

③令和5年度実績

売電電力量：76,374KWh 売電額：2,709千円（税込み）

＊再生可能エネルギーの導入で二酸化炭素等の温室効果の排出量抑制及び環境負荷の低減を目指している。



越谷・松伏水道企業団議会

3. 質疑・応答

（１）発想の展開で水車の水力を送水管内の圧力利用のエネルギー活用は素晴らしい考えである。特許・実用新案登録は？

→導入して今年で19年になる。特許・実用新案登録はしていない。

現場視察（西部配水場小水力発電）10時から11時



西部配水場

現場にて天願副委員長よりお礼の挨拶

所見

1. 東京都 文京区区役所視察

＊テーマ：コミュニティバス運行事業について

（１）公共交通不便地域、既存鉄道駅・路線バス停半径200m遠地区を対象とした病院・福祉施設・観光・文化施設・商業地域等を結ぶことでの対応は素晴らしい、文京区の対応である。

（２）本市の、コミュニティバス路線ルート（病院・福祉施設・文化施設・商業地域等）への調査研究の余地はある。

2. 東京都 杉並区区役所

*テーマ：ビッグデータを活用した交通安全対策

(1) 杉並区は静かな居住地で、区民が安心・安全に暮らせる為に、潜在的危険個所への安全対策（カラー舗装・挟さく設置等）がなされ、本市にも参考になる交通安全対策である。

(2) 道路のカラー舗装等で居住地の景観が良く、本市も参考になる。

3. 埼玉県 越谷市 越谷・松伏水道企業団議会

*テーマ：越谷・松伏水道企業団の再生可能エネルギーの導入による購買電力の削減及び売電について

(1) 本市の給水量・水圧では小水力発電導入は難しい。

(2) 発想の展開は素晴らしい。

私の所見と致します。

以上